

会議録

1 附属機関の名称

犬山市部活動地域移行検討委員会

2 開催日時

令和 7 年 5 月 9 日（金） 午前 10 時から午前 11 時まで

3 開催場所

市役所 2 階 202 会議室

4 出席した者の氏名

- （1）委員 大勝 志津穂、水野 晴雅、後藤 栄吉、高木 順二、梅田 理奈子、
林 昭夫、宮田 孝秀、梅田 佳和
- （2）事務局 滝教育長、中村教育部長
 - ①学校教育課 西村課長、鈴木主幹、安藤課長補佐、森指導主事
 - ②文化推進課 星野課長補佐
 - ③スポーツ交流課 後藤課長補佐、岩田部活動地域移行コーディネーター

5 協議事項

- （1）部活動の地域クラブ移行に向けた休日合同クラブ休日合同バンドの実施について
- （2）部活動地域移行 令和 7 年度の現状について
- （3）その他

6 傍聴人の数

0 人

7 内容

- （1）事務局 挨拶
- （2）委員自己紹介
- （3）会長選出
会長に大勝委員、職務代理人に水野委員が選出された。
会議録の署名人は水野委員と後藤委員が指名された。
- （4）協議事項
 - ①部活動の地域クラブ移行に向けた休日合同クラブ休日合同バンドの実施について
事務局より別紙 2 に基づいて説明。

【質疑応答】

高木委員：

一昨日中学校の校長会があり、部活動について情報交換を行いました。江南市が既に地域ク

ラブを立ち上げているという話を聞いていたので、今までは江南市が近隣の中で一番進んでいるという印象でしたが、令和8年度も中小体育連盟（以下「中小体」とする。）の大会に学校単位で出場するそうです。私の方で中小体も令和8年度は今までの形式で大会を実施するという動きも捉えています。

そういった中で、令和8年度からクラブ単位で大会に出場するという方針は決定事項なのか、あくまで目標として掲げているのか、事務局の考えを教えてください。

なぜかという、犬山市として方針を決めておかないと、保護者や子どもたちに混乱を招くのではないかと危惧しているからです。江南市は現場の状況を見てクラブ単位での大会出場は難しいと判断し、方向転換したと聞きました。

水野委員：

中小体の大会実施の方向性について、情報が何も提供されていないと強く感じています。

スポーツ協会所属の各競技団体からも「今後中学生の大会はどうなるのか」といった質問が多く事務局に寄せられていますが、私も状況を把握できていません。

クラブ単位で大会に出場するという目標を設定するのはいいのですが、子どもたちが困る状況にははいけないと思います。

中小体の動向把握と、中小体への働きかけについて、昨年度の委員会でも意見をお伝えしましたが、状況を教えていただきたいです。

事務局：

まず高木委員からの質問ですが、令和8年の大会は休日合同クラブや地域クラブ毎の出場を目指す方針です。

江南市の場合は、スポーツクラブ江南が請負う形で進めていたがうまくいかなかったと聞いています。

犬山市は「休日合同クラブ」として市内での活動を取りまとめて進めています。種目によって進行状況は様々ですが、現場の先生たちへ教育委員会の考えが浸透してきたところなので、また学校単位での大会出場に戻してしまうと、現場が混乱する恐れがあります。

中小体については、事務局から尾北支所長に対して犬山市の現状を説明し、早急にクラブから複数チームが出場できるような制度を整えてほしいと相談しています。

中村教育部長：

今後も委員会で大会のあり方についてご意見をいただき、機会を捉えて中小体へ提言していきたいと思います。

高木委員：

関連して質問ですが、現状中小体の大会は部活動の顧問が運営しています。今後クラブチームに移行すると、協力要請がクラブに対してあると思います。現在、いくつかの種目が先行して地域クラブへ移行しているかと思いますが、クラブチームの方々は生徒の引率も含めて受け入れを承諾してくれているのか心配しています。

滝教育長：

地域クラブに移行する以上、教員は手を引くので、当然クラブチームの方々には生徒の引率についても承諾してもらう必要があると考えています。

中村教育部長：

具体例を挙げると、剣道については剣道連盟主催の大会に出場する際は、子どもの引率を既に行っています。そのため、中小体の大会に出場するということは自分たちが引率する必要があるというのは理解していただいていると思いますが、高木委員からのご指摘については個別の種目毎に確認をさせていただきます。

滝教育長：

指導者が引率する方法もありますが、例えば既に土日のクラブチームで活動している場合、保護者が会場まで送迎することもあります。とにかく生徒の移動については、教員が関わって責任を持つという今までの考え方からは外れる必要があると思います。

保護者あるいは指導者の責任の下で会場まで移動してもらうというのが大前提なので、それを了解していただくように今後お伝えしていきます。

後藤委員：

別件で質問ですが、資料「令和7年度運動部地域移行の方針」の「2 令和7年9月から全ての休日は、休日合同クラブもしくは地域クラブでの活動とする。」という点が重要だと感じています。

昨年度からの流れでいくと、平日の部活と休日合同クラブは必ずしも同じ動きではなかったので、今までは部活として練習試合を第1・第3土日で行っていたかと思います。ですが、全ての休日が地域移行になり教員が関わらないとなると、練習試合を行うことが難しい。

要は平日の部活と休日の活動の住み分けがどうなっていくのか、自分の中で整理ができていません。

休日の活動が単にスポーツを楽しむことを目的とすればいいのですが、部活となると大会に出場して勝ちたい、試合に勝つために練習を一生懸命やるというイメージがあるので、事務局としてはどのようなイメージで地域移行を考えているのでしょうか。

事務局：

平日と休日の住み分けに関しては、休日は学校としては活動しないので、スポーツ少年団や習い事等、別団体での活動となります。ただ、例えば休日のみ地域クラブに参加する、逆に平日は部活を個人のスキルアップのための時間とする方法も考えられます。

平日の部活動のあり方にも繋がる話になりますが、平日の夜に様々な種目が活動しているので、そういった場に中学生も参加をしていく流れも出てくるのではないかと思います。

後藤委員：

そうすると休日が主流になって、平日は練習の場というイメージでしょうか。

滝教育長：

ずっと中学校の部活動に関わっている先生は、今までのイメージが拭い切れないところがあると思います。学校現場は月曜から金曜までしか部活動を行いません。土日は地域クラブで活動する、地域クラブがない種目は、令和8年9月までは合同で活動しますということです。

林委員：

今回初めて出席するので基本的な質問をしますが、地域クラブというのは新規で結成するものなのか、既にあるクラブチームなののでしょうか。

また、民間が運営することになると思いますが、運営する人が辞めてしまったら受け皿がなくなってしまうと思いますが、そもそも地域クラブとはどのようなものなのでしょうか。

事務局：

協議事項の（2）にも関わる内容のため、先に別紙3について説明します。

②部活動地域移行 令和7年度の現状について

事務局より別紙3に基づいて説明。

補足として、梅田理奈子委員より吹奏楽部の合同バンドについて以下の課題が挙げられた。

【課題】

梅田理奈子委員：

先日指導員を集めてヒアリングを行ったところ、課題は活動場所かなということでした。理想を言うと、例えば南部公民館のような場所で活動ができるといいのですが、今後の様子を見て検討したほうがいいのかなと思います。

あと、人数がどの程度集まるかわかりませんが、1つのバンドで大会に出場するとなると、人数が多ければ大編成・小編成という括りで出場する可能性もありますが、実際1つの活動場所ですべての楽器を2セット用意するのはなかなか難しいです。

また、指導員について、現在もパートごとの練習に対する指導員はいますが、全体合奏で指揮を振る指導員も必要になるということで、活動場所、楽器、指導員が今後の課題になってくると感じています。

【質疑応答】

教育長：

林委員のご質問にまだ回答できていないと思いますが、地域クラブの運営主体がどこになるのか、民間なのか、市で関わるのか、種目によって様々なあり方で構わないと考えています。

すべての種目に対して受け皿があればスムーズに移行できますが、スポーツ協会から事務局長にも委員として参加していただいています。スポーツ協会に所属している団体は子どもたちの指導がしたいからではなく、自分が活動したいから加入している。

子どもの指導ではなく、子どもが大人と一緒に活動するという考え方をすれば、指導してもらわなくてもいいわけです。ただ、合同クラブという形で行っている間は学校が関わっているため、すこしは指導もしないといけない。

地域クラブに移行すれば、子どもが大人に混じって活動すると。それが民間であろうが、公共のものであろうが、それはもういろいろあっていいだろうと思います。

中村教育部長：

補足させていただくと、種目によってはどうしても賄いきれない人がいます。犬山市でもスポーツで表彰している人がいますが、例えばスキーやダンスなどで全国大会に出場した人は部活動で練習しているわけではないです。

そういった民間が運営している種目も選択肢の中に入りますし、例えば硬式野球だと既にクラブチームがあるので、そのような団体に参加してもらっても構いませんし、スポーツ協会が受け入れる種目もあると思います。バスケチームみたいな、今だと美濃加茂まで行かないとないう種目もあります。

そういった選択肢がたくさんある中の1つとして、休日合同クラブが地域クラブ化していき、学校の管理下を外れた教員たちが兼業で関わる方向性など、様々なバリエーションがあると考えています。

宮田委員：

私は野球をしているのですが、参加者が高齢化しているのも、時代が違いますし、指導者にコンプライアンスの研修を行わないと子どもを指導することは難しいと思います。そのため、今後若い指導者を集める必要もあります。

現状だと、犬山市は2学期制なので、他市町村と練習試合を組むことも難しいと思います。

また、サインプレーなどはチームワークが重要なので、合同チームではみんなが慣れていかないと試合を行うことは難しいと思います。

教育長：

現在は土日の活動を地域クラブに移行することを目指していますが、いずれは平日も地域クラブに移行する予定です。ですが、一気に移行できないから段階的に実施しています。

2学期制については、学校は1年間の中でどこにテストを位置付けていくか考えなければいけないので、大会のためにテスト期間を変更することは難しいですが、他市町村と横の連携を取って、子どもたちが参加できないことがないようにしていければと思います。

指導者の確保も難しい問題だと感じています。指導者という言い方だと負担に感じられるかもしれないので、子どもたちの活動を支援していくということなら、力が貸せるよと言ってくださる方もいらっしゃるかもしれないので、お力添えをいただきたいと思います。

梅田佳和委員：

私も初めて出席しているので既に議論されている話題かもしれませんが、将来的に地域クラブにすべて移行していく方向性の中で、地域クラブを統括するような協議会などは検討されているのでしょうか。スポーツ少年団やその他民間のクラブ、休日合同クラブなど独立した個々の組織がある中で、組織どうしを統括する受け皿みたいなものがあると、情報交換ができると思います。

また、平日と土日で別の種目に活動に参加することは可能なのでしょうか。

事務局：

梅田委員がおっしゃったように、休日合同クラブで参加する種目は平日の部活動と種目が違って構わないと保護者や生徒に伝えています。

梅田佳和委員：

実際にそのような事例はあるのでしょうか。

事務局：

申し訳ありませんが、把握できていません。

滝教育長：

様々な種目に参加できるのも休日合同クラブの利点です。

例えばリトルリーグで硬式野球をやっている場合は学校の軟式野球部には入れません。それから、土日に硬式テニスクラブチームに参加している生徒は学校のソフトテニス部には入らないこともあるので、選択肢を広げられるようになります。

また、各組織を統括する受け皿については、現在は教育委員会、おそらく最終的にはスポーツ交流課が担っていくことになると思います。

中村教育部長：

地域スポーツという大きな括りの中ではスポーツ交流課が担当しますし、文化に関しては文化推進課が担当していきます。

例えば岩倉市では総合型スポーツクラブが受け皿として機能していますが、犬山市には残念ながらそのような組織がないので、各団体に受け皿となっていたるように調整しています。

高木委員：

令和8年度の夏の大会について、出場単位はいつ頃決定されるのでしょうか。令和7年度の夏の大会が終了すると、次年度に向けて新チームが結成されます。その際に子どもたちに方針を伝えてあげないと、現場や保護者も困るので、夏休み前には伝えてあげたほうがいいと思います。

事務局：

6月には吹奏楽部も含め、1年生に対して休日合同クラブに参加するかアンケートを取る予定です。その際には今後の方針や、先行して地域クラブに移行する種目については具体的な活動日程や参加料などもお伝えしようと考えています。

水野委員：

そのためにも、やはり中体連の組織変更を教育委員会からも申し入れるべきだと思います。

そうしないと、生徒や保護者に来年度の夏の大会は地域クラブで参加しますと言って、ふたを開けてみたら地域クラブの参加が認められない可能性もあると思います。

教育委員会として中体連に働きかけをしていただきたいと思います。

高木委員：

把握している範囲でお伝えすると、現状で地域クラブの出場については規定があり、認められていますが、各団体から出場できるチームは1チームのみです。

例えば野球部の状況を聞いていると、人数が多ければ2チーム出場できるように考えているとの話も出ていますが、それは現状難しいと捉えています。

水野委員：

参加している子どもの人数に応じて複数チームの出場が可能になるように申し入れをしていくべきだと思います。

教育長：

大会に出場したいのに出られない子どもがいないようにしていきたいと思います。ですが現在も学校単位で出場して、レギュラーになれない子どももいます。何も大会が最終的な目標ではない。

中小体の大会以外にも、例えば市の大会もあります。

スポーツに対する意識を変えなければいけないです。「大会に参加したい、優勝したい」から、「スポーツを楽しむ」と意識を変えていかないと。大会への参加意欲について否定するわけではないですが、今でも大会に出場できない子がいるとは思いますね。

ただ、子どもたちが不完全燃焼で中学校の3年間終えてしまうことは避けたいと思います。いろんな場でまた、声は上げていきたいと思います。

宮田委員：

ぜひ提言してほしいです。絶対に勝つ喜びはあります。勝って次の大会に出たいという意欲を感じてほしいです。

滝教育長：

そのような声があることは伝えていきます。

ただ、考え方を少しずつ変えていかないと続いていかないと思います。

大勝会長：

部活動で勝敗を味わうことももちろん大事だと思いますが、そこにこだわるとスポーツ人口が減少していくことが懸念されるので、中学生の間に体を動かすことやスポーツをすることの楽しさを感じてもらえる場を提供することが大切だと感じています。

ですので、地域クラブ移行後もスポーツの楽しさを伝えられるクラブのあり方についてお願いしていかないと、スポーツ人口は減っていく一方ではないかと思っています。

③その他

事務局より別紙4に基づいて説明。

【質疑応答】

なし

(5) 次回の予定

8月に第2回の開催を予定。

令和7年 月 日

上記に相違ないことを確認する。

(署名)

(署名)
